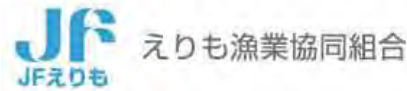
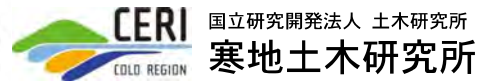


北海道開発局長記者会見資料  
令和5年4月25日

# えりも町沿岸の天然コンブ漁場における ブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>吸収量の調査を開始

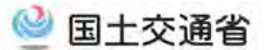


北海道開発局ホームページへはこちらから。



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

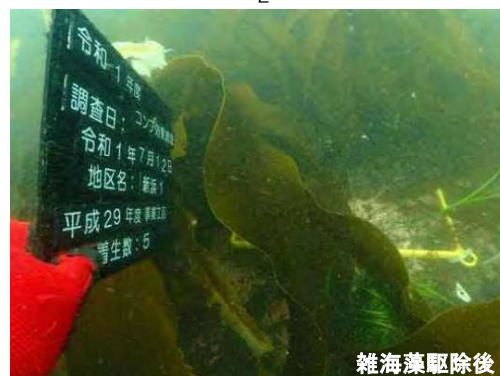
## 調査の背景・目的



- えりも町では、明治以降、燃料としての木々の伐採や、牛・馬・綿羊の放牧などによって、大地は砂漠化しました。えりも岬特有の強風によって舞い上がった赤土は沿岸の海を濁らせ、海藻類は根腐れをおこし、回遊魚や沿岸の魚も減少しました。このため、関係者が一丸となって緑化事業を実施し、豊かな緑と海の資源を回復させました。
- この緑化事業は現在でも継続して行われており、さらに、コンブ漁場を守るため雑海藻駆除も実施されています。これらの取組は、緑と海の資源確保だけでなく、グリーンカーボンとブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>吸収の観点で、現在では、その重要性が増しています。
- 北海道開発局及び寒地土木研究所は、北海道大学大学院情報科学研究院、えりも町、えりも漁業協同組合と連携し、ゼロカーボン北海道の実現に貢献するため、えりも町沿岸の天然コンブ漁場を対象としたブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>吸収量の調査を行います。



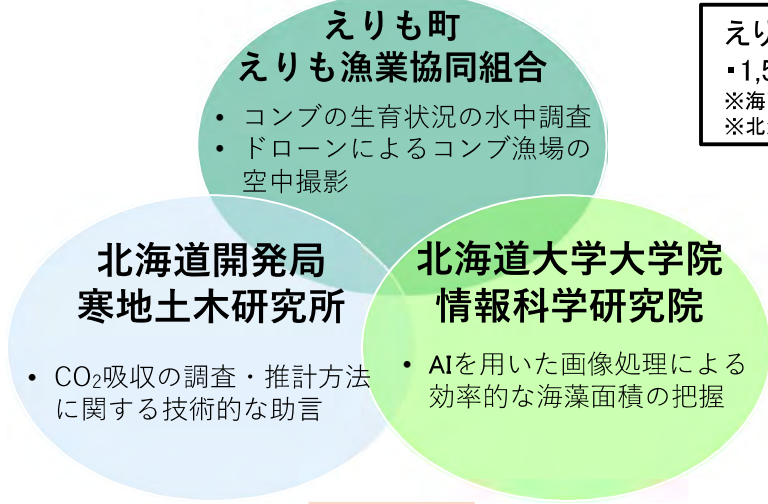
雑海藻駆除前



雑海藻駆除後

雑海藻駆除による天然コンブの増加(えりも町)

- 北海道開発局と寒地土木研究所は、ブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>吸収に関する調査・推計の実績に基づき、えりも町とえりも漁業協同組合が実施するドローンや潜水士による現地調査結果から、両者が連携し、天然コンブ漁場のCO<sub>2</sub>吸収量をして把握します。
- さらに、北海道大学大学院情報科学研究院・長谷山研究室とも連携して、ドローンによる撮影画像からAIにより、海藻類の広大な生息面積を効率的に算出する技術開発を進めます。



**えりも町の天然コンブ漁獲量**  
 ・1,589t(2020年):全国第1位  
 ※海面漁業生産統計調査  
 ※北海道水産現勢



**連携**

**広大な天然コンブ漁場における  
ブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>吸収量の効率的な把握**

想定スケジュール	
5月	関係者による検討会設置
6月	えりも町周辺での現地調査
年内	CO <sub>2</sub> 吸収量の算定

令和5年7月3日稚内開発建設部発表

## リシリコンブの養殖漁場における ブルーカーボン生態系のCO<sub>2</sub>吸収量の調査

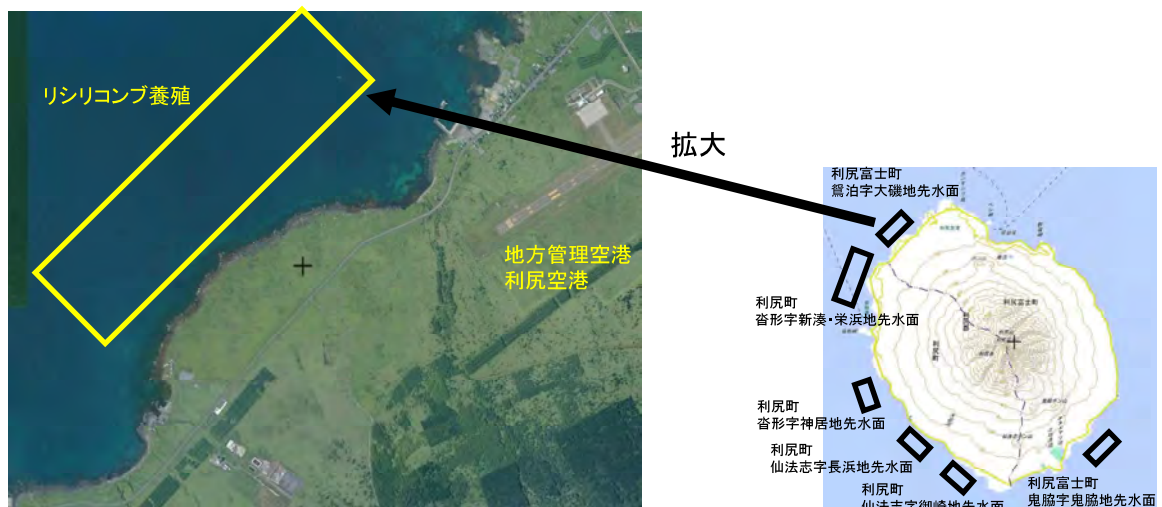


## 調査背景

- リシリコンブの産地である利尻島沿岸域では、近年、磯焼けが確認されており、安定的な生産を確保するため、天然コンブ漁だけではなく養殖にも取り組んでいます。一方、リシリコンブの養殖の推進は、ブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub>吸収が期待できることから、気候変動の緩和策の観点でも、その重要性が増しています。
- このため、利尻富士町、利尻町、漁業者である利尻漁業協同組合員および稚内開発建設部が連携して、リシリコンブ養殖によるブルーカーボン生態系のCO<sub>2</sub>吸収量を年内目途に推計することとしました。
- なお、現在利尻富士町では、令和5年度中に地球温暖化対策実行計画を策定する予定であり、CO<sub>2</sub>吸収源対策の一環として本取組の調査結果を活用することを検討しています。

1

## リシリコンブの養殖箇所



湿潤量等を計測する昆布の養殖区域  
(利尻富士町鷺泊字大磯地先水面)

利尻島

2

## リシリコンブの生育状況

利尻富士町鴛泊字大磯地先水面



養殖昆布施設での2年目の成コンブ  
(令和5年6月撮影)

4

## 湿重量等の現地調査内容

- 1) 昆布干場で広げられた養殖ロープから繁茂している箇所を選定。
- 2) ロープに巻き付けられている昆布、数箇所の距離を計測。
- 3) 昆布を刈り取り、湿重量と本数、葉長・葉幅を計測。



昆布干場での天日干し  
(令和4年6月撮影)

6